

こくまる



特徴

- 果実は扁平果で1.6 kg前後の中玉。果皮は濃緑色、チラシ斑は少ない。花落ち部は低温や窒素過多による強勢や高節位に関わらず小さい。
- 肉質は粉質系で果肉色は濃黄色。甘み強く感じ良食味の品種。果皮が非常に薄く、口残りが少ない。
- 草勢はおとなしく、葉は中葉で葉柄は短い。また低温下でもツル伸びが良い。
- 雌花の着生は草勢の強弱に関わらず非常に良く、着果性も良い。
- 日持ち性が非常に良く貯蔵時の果皮の退色が遅い。抑制栽培では収穫後4ヶ月貯蔵可能。
- うどんこ病の発生は少ない。

■栽培適期表

(近畿標準)

栽培型	月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トンネル早熟	●	×					—	—				
露地	●	×					—	—	—			
ハウス抑制								●	×	—	—	—

記号説明 ●:播種 ×:定植 —:栽培期間 ■:収穫期間

栽培方法

高品質な青果を求める場合、子ヅル2本整枝(株間60cm)を推奨する。

<子ヅル2本整枝>

親ヅルから勢いがある子ヅル2本を選び伸ばし、親ヅルは5節程度で摘芯する。残りの子ヅルは摘除。大玉を狙うなら高節位着果が望ましいため、約17~18節前後に着生する雌花を交配し着果させる。着果節位までの側枝は必ず摘除。着果節位から8~10節目程度で子ヅル先端を摘芯。子ヅル先端までに発生する側枝は草勢をみながら摘除する。

<収穫>

果梗部全体にコルク化が広がると収穫時期。交配後45日前後が収穫の目安になる。

<肥培設計>

元肥は10aあたりN:P:K=12kg:16kg:12kgを基準として施す。着果後の草勢が弱い場合は窒素成分で3kg以内を施し、果実肥大、草勢を維持するようにする。

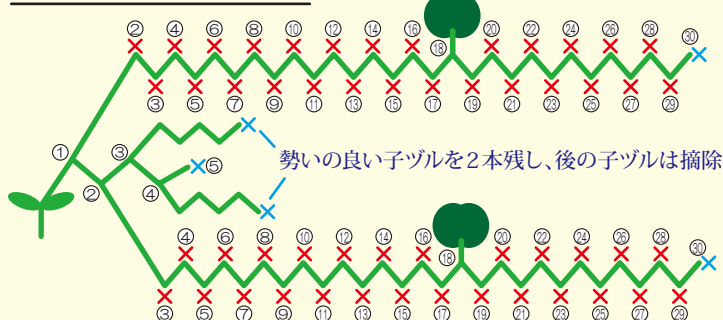
<栽培注意ポイント>

草勢がおとなしいため収量向上(大玉を狙う)のためには高節位着果が望ましい。具体的には最低でも3番花 or 17~18節以降。とにかく交配を急がないこと。しっかり植物の体が出来上がってから着果させる。

<貯蔵性向上のコツ>

- 果実を若穫りしない
(果梗部のコルク化割合が7割以上、果皮の光沢が落ち着く、果皮がべたつかない)
- 果実を日焼けさせない
(着果後の草勢を維持、株元の葉は比較的枯れ上がりやすいので低節位着果を避ける)
- 果実表面の雑菌繁殖を防ぐ
(雨天時の収穫は避ける。泥の着いたハサミで収穫しない)
- 貯蔵環境を整える
(10度前後の風通しの良い冷暗所で保管する。果実は積み上げすぎない)

子ヅル2本整枝(春作)



※草勢が大人しいため、高節位着果を推奨する。